

総合タイプ② 復興公営住宅入居者の引きこもりを防ぐ、 外出・交流支援事業(南三陸町戸倉・志津川西)

活動の背景やきっかけ

復興公営住宅の自治会が、共益費の集金や団地の共通費用支払といった最低限の機能にとどまらず、住民同士の交流や助け合い活動のような多様な機能を発揮していくことができるよう、集会所を活用した交流会や外部支援者のコーディネート、町の無償貸切バス「モアイバス」を活用した外出支援活動等を通じて支援した。対象地区については、これまで当会の支援活動が十分に展開できなかった地区の中で、自治会活動の自走に課題が残っていた2ヶ所の復興公営住宅を選定した。

実施した活動と助成金をどのように使ったか

(1) 椿はな咲くまちづくりお茶会

住民がふらっと気軽に出てこられる雰囲気のあるサロン「椿はな咲くまちづくりお茶会」を開催した。戸倉団地では、地区全体の復興の様子をまとめた地図「戸倉っこマップ」を作っていく活動を交流会活動に組み入れた。



2019.9.19
戸倉っこマップの
完成お披露目
(戸倉団地)

(2) 移動交流・外出支援活動

復興公営住宅入居者が一緒に、町内や近隣市町の復興の様子を見学し商業施設や観光施設等をめぐる移動交流会を開催した。

2019.11.18
気仙沼～陸前高田
移動交流会
(志津川西団地)



(3) 「復興まちづくり通信」の発行

(1)(2)の活動の様子を取材しまとめた「南三陸復興まちづくり通信」を発行し、情報発信した。対象復興住宅の入居者には全員に配布した。加えてこの通信を他の復興公営住宅入居者や、行政・社協等の関係機関、外部支援者等にも配布して見ていただくようにした。

○助成金の使い道 人件費8割／通信印刷用紙・インク代・取材交通費1割／他経費1割

(下)
復興まちづくり通信

活動を通じた成果、地域・住民の変化は

移動交流会については、告知後すぐに参加者が定員近くまで集まるなど、ニーズが高く、参加者の感想からも満足度が高い傾向が見られた。事前にお茶会の場で希望を聞いて行先を決めるようにしていたが、「〇〇に行きたい」「●●したい」といった前向きな声を聞くことができた。さらに復興まちづくり通信を読んで「あそこの団地でやった交流会うちでもやって」という声をいただくことも増え、活動の水平展開も徐々に進んでいる実感を得ることができた。



今後の活動や目標

地域の現状を考えると、復興公営住宅内の交流活動だけでは近々限界が来る。サロン企画について団地を超えた交流・連携も模索したが今回の対象地域ではうまくいかなかった。日頃顔を合わせない方と一緒に活動することに消極的な姿勢が見られ、脆弱なコミュニティが閉鎖的になりつつある傾向が感じられた。今後は、復興祈念公園をフィールドにした活動など、コミュニティが開かれるような活動を工夫して進めていきたい。